

事業名	新型コロナウイルス感染対応緊急支援助成 ブラッシュアップ研修
開催日時	2020年9月12日(土)9:30~13:00
会場	熊本 YMCA
目的	本助成にかかわるすべての人にとってよりよい最終審査会とするために、各申請団体への質問やフィードバックを通して、各団体の発表や申請事業をブラッシュアップする。 ⇒各申請団体がお互いに質問しあうことで、団体同士の関係性を育み、今後の連携・協働へつなげる。
参加団体	10 団体 子どもの第3の場でいんぐる運営委員会(複)/熊本県子ども見守りネットワーク(複) フリースクール地球子屋/認定 NPO 法人 NEXTEP/(株)きらりコーポレーション (医)トータルメディカルケア/あらたまハートブランド協議会/NPO 法人ひなたぼっこ NPO 法人シンフォニことばの海はぐぐみの森/一般社団法人 BRIDGEKUMAMOTO(複)
講師	木村真樹 (合同会社めぐる 代表)
スタッフ	中村賢次郎・宮原美智子・小田川望・本多清美
内容	9:30-9:35 主催者あいさつ 9:35-9:50 今日のねらい&進め方の共有 9:50-10:50 計5団体の最終審査【1団体につき発表7分+質問票記入5分】 ①子どもの第3の居場所でいんぐる運営委員会 ②熊本子ども見守りネットワーク ③フリースクール地球小屋 ④(株)きらりコーポレーション ⑤(医)トータルメディカルケア 10:50-11:00 休憩(質問票の受け渡し) 15:15-16:15 計5団体の最終審査【1団体につき発表7分+質問票記入5分】 ⑥あらたまハートブランド協議会 ⑦NPO 法人ワークショップひなたぼっこ ⑧NPO 法人シンフォニことばの海はぐぐみの森 ⑨一般社団法人 BRIDGEKUMAMOTO ⑩認定 NPO 法人 NEXTEP 12:00-12:10 休憩(質問票の受け渡し) 12:10-12:40 木村氏からのフィードバック&質疑応答 12:40-12:55 振り返り 12:55-13:00 最終審査会に向けたアナウンス等
最終審査に向けて講師からのコメント	●事業の背景・社会課題について 現状の社会課題(見えている課題)の原因を深く考えているか。その活動は課題の解決方法として整合性があるのか。自分たちがやりたいから、ではなく、地域の「足りない」(課題)を埋めるための活動になっているか検証が必要。自分たちのやりたいことだけをやっては、当事者を救うことはできない。数字を使っているところが少ないが、この現状はヤバイ!!と審査員に思わせないといけない。 ●先行事例を調べた上で挑戦しているか。

	<p>●ロジックモデル を組み立てた上で現在の活動の位置づけを考えているか。 今回は緊急支援であり 1 年間の活動なので求められてはいないが、5 年後、10 年後に団体がどうありたいかは考えておくことが必要。持続可能な活動であるためにも。今回尋ねている、「(2)事業実施後(1 年後)以降に目標とする状態」とは、ロジックモデル でいうところの初期(短期)成果のこと。事業(=手段)によって、一年後に組織の意識や行動はどう変わっているかの状態を聞いている。 「(3)今回の事業実施で達成される状態(アウトプット)」とは事業終了までに何を完了しているか。 「実施・到達状況の目安とする指標」は何をもって、やったと言えるか。</p> <p>●プレゼンテーションは審査員へのプレゼントと思って、ブラッシュアップして欲しい。</p>
<p>団体からの質問</p>	<p>Q.事業の持続可能性を見るポイントは何か。(BRIDGEKUMAMOTO 佐藤) A.「経営資源(人・モノ・金)が 1 年の事業期間中にどこまで育めるか、ということ。 決してお金だけではない。(木村)</p> <p>Q.事業の PDCA を常に回していくことはとても大切なこと。その中で、仮説がずれていることがわかったり、連携した方が良いと感ずることがある場合、計画の変更は可能か。(きらりコーポレーション塚本) A.もちろん、そういう場合もあるので、伴走のなかでフィードバックしながら考えていく。費目の中で資金を流動させることで対応できれば計画の変更は可能。(木村)</p> <p>Q.来週のプレゼン本番までに事業計画を変更したら自ずと資金計画も変わってくるが、それは可能か。(きらりコーポレーション塚本) A.内定後、契約までに資金計画の細部を決めていく。(宮原)</p>
<p>まとめ</p>	<p>【事務局から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終審査に向けて木村氏からのアドバイスと他団体からの質問票を参考に、よりよい発表内容となるよう各団体とも改善が必要。いろいろな指摘の中から、どの課題を自分の中に入れるか、という選択も必要となってくる。 ・課題のとらえ方については木村氏からの指摘の通りであるが、最終審査会までに、修正発表資料を提出する(17 日まで) ・主語は団体ではなく、対象者。休眠預金(国民からのお金)は当事者のために使われるものであることを忘れずに。 ・発表の仕方の工夫。声の出し方。時間管理など、より伝わるように意識して。 ・発表資料の工夫。図などを使って。自団体のことは審査員は調べているので把握しているのであまり触れなくていい。 <p>【ブラッシュアップ研修の成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な組織形態の団体が、互いの発表を見合う機会は少ないと思われる。最終審査会に向けて事前に見合う機会を持ったことは、団体にとっても学びの多い時間となった様である。 ・ニーズ把握・課題のとらえ方・目標設定事業内容の再調整など、研修を通して、団体内で再確認する機会となった。 ・研修最後の時間、団体ごと・全体での振り返りの時間を取れなかった(最終審査委員会では、時間を確保していきたい。) ・各団体の事業計画・資金計画については、内定後調整を行う予定である。(事業内容と資金計画が合致しない申請もある)

ブラッシュアップ研修の様子

団体発表

7分発表

質疑応答



木村氏からのフィードバック&質疑応答



《参加者から発表団体への質問票》

質問票	
団体名	さんへ
団体名	氏名

- 「社会を変える」計画を作る 10 のポイント
- 1 : 「ビジョン」「ミッション」は何ですか？
 - 2 : 誰が困っていますか？ 3 : 何に困っていますか？
 - 4 : なぜ困っていますか？【変化の法則 or 問題構造図】
 - 5 : 自団体の「強み」「弱み」、外部環境の「機会」「脅威」は何ですか？
 - 6 : 解決に取り組む先行事例には何がありますか？
 - 7 : 誰と解決に挑む必要がありますか？【相関図】
 - 8 : 「1年後」「5年後」に何をどこまで変えていますか？【ロジックモデル】
 - 9 : 来年度は何に挑みますか？（アクション）
 - 10 : そのアクションにはいくらかかりますか？ そのお金をどう調達しますか？
(木村氏からのフィードバック)